

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

共通教育推進室

(責任者名) 平尾 毅

(役職名) 共通教育推進室長

② 自己点検・評価体制における意見等

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|------------------------------|---|
| 学内からの視点 | |
| プログラムの履修・修得状況 | 本プログラムは、全学生にとって履修可能な科目により構成しており、必修科目として前期に開講している「ITリテラシー」、「情報科学Ⅰ」ではOfficeソフトの基礎的な活用方法等を中心に、個別の学習状況・理解度に応じて学修支援を行った。 後期の「データサイエンス基礎」、「情報科学Ⅱ」では数理・データサイエンス・AI教育プログラムのリテラシー部分を基に、用語の説明や実践事例の紹介、また、Excelを使ったデータ分析手法を学び、目的設定、情報収集、データ分析、表現までの一連の流れを実践した。 単位未修得者の割合については「ITリテラシー」、「情報科学Ⅰ」については7.4%、「データサイエンス基礎」、「情報科学Ⅱ」では6.9%に抑えられている。(300字) |
| 学修成果 | 令和4年度「ITリテラシー」、「情報科学Ⅰ」の最終成績は、S:54.4%、A:25.0%、B:8.9%、C:4.3%、D:7.4%、「データサイエンス基礎」、「情報科学Ⅱ」の最終成績については、S:42.9%、A:30.6%、B:11.5%、C:8.1%、D:6.9%であった。 授業アンケートの結果から、9割以上の学生がこれからの大学生活をはじめ、社会人になってからも役立つ内容であると回答していることから、データサイエンスの学習の意義を学生自身が強く感じていることが分かる。上記の結果から、「高度情報社会におけるITの基礎的知識ならびに専門教育に向けた基本的なITスキルの習得」や「データサイエンスに関する基礎的・汎用的能力の獲得」については達成できていると判断している。(299字) |
| 学生アンケート等を通じた学生の理解度 | 「ITリテラシー」、「情報科学Ⅰ」の授業終了時アンケートより、理解度について、理解できた58%、やや理解できた38%と9割以上の学生が理解できていると回答している。授業内容について、難しかったが繰り返し学習を行い理解できるようになったと、自身の成長に直結することが実感できたと回答するものが多かった。 また、「データサイエンス基礎」、「情報科学Ⅱ」では、理解できた46%、やや理解できた48%と9割以上の学生が理解できていると回答している。 いずれの科目においても、データ社会に出る上で非常に役に立ったとの回答が多く、受講した学生の9割以上が、将来の役に立つと回答している。(276字) |
| 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度 | 授業終了時アンケートより、 ・大学生活やこれからの将来でパソコンスキルが必要になってくるので、1回生前期にこの講義を受けられてよかった。 ・Officeソフトの使い方知らない状態で大学に入学したのでとても不安だったが丁寧に教えてもらったので理解することができた。 ・パソコンについての知識が何も無い状態からのスタートだったが、この授業のおかげでレポート作成などに困らなくなった。 ・パソコン操作が好きになり人に教えることもできるようになった。 ・実践しながら覚えていくので、力が身に付きやすかった。 以上のように、この科目単体での感想というよりも、他の科目に波及して使用できる汎用性の高い科目であると学生は認識している。(299字) |
| 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | 令和4年度は、「たちばなAI・データサイエンスプログラム」の制定年度であるため、達成状況としては評価することができないが、本プログラムを構成する一部の科目は、各学部・学科において必修科目であるため、単位取得率は100%を目指している。また選択科目についても、ポータルサイトシステムや本学のホームページを活用した、積極的な周知・広報を行い、プログラム修了生の獲得を目指していく。 今後、学生に対しては、単に履修登録に関する推奨・促進を行うだけでなく、本プログラムを修了する意義を伝えることで、学生自身が主体的に学び、考える土壌を醸成したいと考える。(270字) |

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|---|--|
| 学外からの視点 | |
| 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価 | <p>本プログラムである、「たちばなAI・データサイエンスプログラム」は令和4年度に運用を開始しており、対象者についても令和4年度以降の入学生に限定しているため、現時点で本プログラム修了者の中に卒業生は発生しておらず、現段階ではプログラム修了者の進路や企業等での活躍状況等を評価することはできない。今後は、就職進路課とも連携を行い、卒業生アンケートを通じて、業種・業界を問わず、プログラム修了生の進路状況やその後の活躍（課題発見能力、情報分析力といったデータを適切に扱うことができる、デジタルリテラシーが身についているか等）の調査・分析を実施していきたい。(274字)</p> |
| 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見 | <p>本プログラムの認定科目の多くが、全学における教養科目として開講されており、科目個別では、授業アンケート結果を踏まえた改善や、教員個人による「授業改善集」という形にまとめた教員自己点検を実施することによって鋭意改善を実施しているが、産業界からの視点は、得られてはいないというのが現状である。令和4年度開講本プログラムを開講目たため本プログラムの有用性を確認卒業生の発表を図るとも、産業界学生の視点を含めることが可能となるよう、カリキュラムの変更、科目運用について検討していきたい。(293字)</p> |
| 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | <p>本プログラムの導入部分では、自身が学んでいる学問を通じたデータやAIの活用状況を調べるなど、自分事として、自身のこれからにどのように関わっているかを認識してもらい課題を組み込んでいる。またAIの活用事例では最新の事例を紹介し、AIを身近に感じてもらい内容を組み込んでいる。データ分析においても、自分の考察を入れることを条件設定し、ただ作業をしているのでは解決できない授業内容に設計している。本プログラムが段階的な教育プログラムとして構成されており、一部科目については必修科目として運用されているため、学生全員が数理・AI・データサイエンスの基礎的知識・能力を獲得することを目指している。(288字)</p> |
| 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること | <p>「ITリテラシー」、「データサイエンス基礎」、「情報科学Ⅰ」、「情報科学Ⅱ」のいずれも、オンデマンド授業であるため、見やすさや理解のしやすさに重点を置き、学習動画を作成している。アンケート結果も、「動画だと操作方法が分かりやすい」、「繰り返し見返す」等、これらの取組みに対して、肯定的な意見が多くあった。授業内容についても、常に最新の情報を取り込むことで、学生の学習機会を増やす取り組みを継続していく。また、クラウド型成績管理システムを導入し、実際のOfficeソフトを使って解答操作を行う、実践的な学習を実施。能力値の分布や成長性を可視化し、学習の習慣化、動機づけを行っている。(284字)</p> |